

会議録

会議の名称	西東京市立学校給食運営審議会（第12回）
開催日時	平成27年7月24日（金曜日）午後2時30分から午後3時48分
開催場所	保谷庁舎 別棟B・C会議室
出席者	委員：有澤会長・宍戸副会長・松村委員・小野寺委員・田中委員・小谷野委員・佐藤委員・杉原委員・可児委員・久保田委員・横田委員 欠席：森下委員・熊谷委員・立川委員・早田委員・新出委員 事務局：等々力課長・近藤係長・石部主事
議題	議題1 中学校給食の検証について 議題2 その他
会議資料の名称	資料1 西東京市立中学校完全給食について（意見）案
記録方法	<input type="checkbox"/> 全文記録 発言者の発言内容ごとの要点記録 会議内容の要点記録
会議内容	<p>事務局より</p> <ul style="list-style-type: none"> ・会議成立の確認 ・出席委員11名、委員数16名で過半数に達しているため、本審議会の成立を確認 ・傍聴の確認 (なし) ・配布資料の確認 (資料1確認) <p>議題1 中学校給食の検証について</p> <p>○会長：</p> <p>任期を1ヶ月残し、本日まとめる意見書の提出という職務はあるが、会議を行うのは今回が最後になるものとする。実りある会議にしたい。</p> <p>これまで中学校給食の検証を行い、課題も見えてきたが、親子給食に関してはうまく進んでいることも理解できた。審議の途中ではあったが、中原小の建替えに伴う2年間の仮校舎での給食をどうするのかという課題が発生した。この問題は、小学生の食の安全の確保のためには自校式が妥当ということになった。</p> <p>次に、もともとひばり中として建てた校舎なので、そこに作った給食室を使ったひばり中での給食に関して意見を聴取したところだ。この意見については、別紙にて「付帯意見」ということで取り扱うこととした。</p> <p>前回までの意見をもとにした文面を作成したので、本日最終の意見聴取をしたい。</p> <p>このひばり中での給食の件に関しては、改めて全員の意見を聞いた上で、正副会長が文面の調製を行いたいと思うがいかがか。</p> <p>(「異議なし」)</p> <p>そのように取り扱いたい。全委員の意見を確認する。</p> <p>○委員：</p> <p>前回さまざまな意見があがったが、小学校については自校式の給食を食べてもらうということでよいと思うが、そのために給食室を作るので中学の問題も出るようになるが、今回は、小学校の給食室を校舎外に別棟で建てて、中学が入るときには壊してしまうという案が、さまざまな条件を考えるとより良い選択であると思う。</p> <p>本当は、全中学校が自校式になるという計画が立ち上がってほしいが、市の予算の都合もあると思うし、仮にその計画があってもかなり先を見通さなければならないことも</p>

予想される。そうすると、消去法ではあるが、校舎内には給食室は作らずに、中学が入る前に壊してしまうことが良いのではないかと思う。

○委員：

市の計画の元に行われるのであれば自校式が良いが、計画がないのであれば、公立校なのだから1校だけが自校式にせずに、青嵐のように多目的室として設置してはどうか。

○委員：

付帯意見の案文にもあるが、最終決定は市と教育委員会になろうと思うが、中原小が入るときの設計図面には給食室が描かれることになり、中学が入ったときにはそれが残っていれば、またその時点で議論になると思う。中学生を持つ親の意見も出てくると思うので、この審議会での議論とは別の決定がなされるのだと思う。

個人的には自校式が良いと思う。ただ、市の予算の増が1千万円を上回るものになると聞くと、大変難しいところではあろうが、それでも全校が自校式になることを望みたい。ただし、ひばり中だけが自校式になって終わってしまうとなると、今はその時期ではないという意見にも納得が得られる。大変悩んでいる。

給食室が残らないように別棟で作ればよいという提案もあるようだが、校舎内に給食室を作れば、残った給食室を使わないのはもったいないし、そうなれば、自校式のスタートになるのではないかという期待も膨らんでくる。

○委員：

青嵐中の多目的室には床下の配管や排気ダクトがある程度で、今は何も見えないために保護者は給食室としての想像はつかない。しかし、実際の流し台や調理器具が設置された給食室を目の当たりにしてしまうと、多目的室に戻すために、せっかくあるものを取壊すのはどうかという意見も出てしまうと思う。そう考えると、別棟の仮設にして、壊してしまえば何もなくなってしまうという方法がベターかと思える。いつスタートするとも知れない自校式に想像を膨らましてよりは、何もない多目的室でスタートを切ることが良いと考える。

公立校なので、公平性を重んじることが大切だと思うが、結論は市が決めることになると思う。

撤去の方法についてだが、全ての給食の機材・備品や給排水やガス管等も全て外すということになるのか。

○会長：

全ては予算が伴うことであり、撤去を含めて、校地内のどこに作ることが良いかを、教育委員会が決定することになる。私たちの選択は、ここで1校のみでも自校式にするのか、公立校なので公平性を重視すべきなのかである。中学の保護者にひばり中でスタートしてしまえば、後は全校に広まるという期待を持たせてしまわないように処理する方法を提案して、今後の予算化の際に反映されることを期待したい。

保護者委員は、自校式は理想だが、全体計画の見通しがいい中で1校のみが先行するのはまずい、公立校なので公平性を重視してほしいという意見のようだ。学校関係者の意見を確認する。

○委員：

保護者委員の意見も財政状況も十分理解しているが、直接子どもたちの健康を左右する食事を提供する中で、親子給食の実施校は全国的に見ても少ない。時間に追われ、安全性を犠牲にしながら提供している現状を考えれば、どこかで自校式に切り替えるきっかけがあるのならばそれを選択したい。中学も自校式にすることが大事だ。

全ての学校が建て替わるのには100年でも終わらないかもしれないが、その足並みが揃うのを待つという判断でいたら、絶対に自校式にはならなくなってしまふ。どこかが先行することは必要だと思うが、厳しい財政上の中でどのような市の判断が出るかはわからないが、栄養士としては自校式の検討はしてほしい。

○委員：

親子給食を行ってきた現場としては、自校式をという考えは同じであるが、直ぐに多くの学校での自校式というのは難しいと思うので、将来的に給食室への改変が可能な多目的室の設計をこの機会に考えてほしい。そうなれば、いずれ自校式にというときにも予算の縮減につながるし、弾みにもなる。せめて設計だけは組み込んでほしい。

このことは、給食室としてのことばかりでなく、防災面からの可能性も出てくると思う。万が一のときにも役立つ施設設計をしてはどうか。

中原小は意見書のとおりになると思うが、これに関しては仮設であれ、校舎内であれどちらでも良いと思うが、校舎内に関しては、せっきくの給食室を取壊してしまうことになることへの抵抗感は強くなると思う。

意見書の4頁の(8)の1行目に「チラシ発行」とあるが、文言の調製を依頼する。

○委員：

どの意見も筋が通っており、これでなければいけないということには至っていない。給食を作る側の苦労はよく理解できるので、せっきくの建替えのチャンスを逃したくないということも発言したが、他校の保護者や公立校であるということも考慮すれば1校だけが先行することは問題が多いとも思う。

将来的に全校を自校式にするという計画により、建替えの都度自校式にしていくことが良いのではないかと思う。ただし、財政面の判断についてはこの審議会では決められないので、最低限はいつでも自校式に切り替えることができる多目的室を用意してほしい。

○委員：

難しい選択だと思うが、個人的には自校式が良いと思う。親子給食を間近で見ている苦労が理解できるので、この建替えはチャンスであると思う。

昨日、防犯の研修に参加したが、オランダの小学校では、校地の境に校舎と同じ高さのガラスの壁が張り巡らされていると聞いた。子どもを不審者と排気ガスから守る意味があるそうだ。他国では、子どもを守るための教育予算には糸目をつけないということだと思う。

そうでない日本の現実の中で、もしも自校式が実現した場合には、そのことに割いた予算分が他の教育費で調整されてしまうことを恐れる。税金が高くなることも心配される点だと思う。

○委員：

前回と同じで、1校のみの先行には疑問を感じている。

委託会社との懇談でも、現行の親校の給食室は狭いし、設備的にも工夫が必要な部分もあると聞いている。もしも今回のひばり中に給食室が設置される場合には、余裕のある給食室を設置すべきと考える。

副会長：

自校式が理想であることは万人が認めるところであるが、そのことを選択するからには1校のみではなく、ある程度の計画が立ったところでスタートすることが必要だ。もちろん、一斉にスタートを切ることにはできないが、ある程度は先が見える中で保護者にも

説明をすることができると思う。4年前の中学校完全給食のスタート時もそうであったが、短い期間での全校実施が肝心であると思う。今はその計画が出来ていないので、1校のみの実施は行うべきではない。

これまでも、親子給食の立ち上げにも関わってきたし、給食そのものを良くしようという現場に私もいるので、もっと全体に予算も手もかけてほしい。ひばり中のみで予算が執行されるということにはならない方がよいと考える。

また当然のこと、いざ自校式を選択しようとした際に、直ぐに立ち上げられる基礎工事を施しておくことは必要であると思う。設計の専門家をお願いして、一番優れた方法を取り入れてほしい。

○会長：

多くの委員が公立校の公平性の観点からと、計画がない中での自校式の選択は問題あり、ということであった。私もそのとおりだと思う。

1つ始めてしまえば、後はどうにかなるのではないかという、楽観的な希望だけで物事を進めると、そうならなかったときに落胆すると思う。きちんとした全体の計画を立てての1校ならば、次の2校目と続いていくと思う。こうしたことは、先に計画があつてのことだと思う。給食は命に関わるものなので、子どもたちの安全が要点だ。先月確認した中学校給食の検証でも課題が出てきている。

例えば、給食室へのエアコンも無い中で懸命な努力で事故なく提供できているが、その解消。牛乳にアレルギーのある生徒への牛乳代の返金も行われていない現状があるが、そのための人手の確保にも予算が必要になると思う。アレルギー除去食も中学では行われていないが、これ以上の予算は投入できないという前提での結論であるが、もしも予算を加えればできることがないかと考えたならば、良い案が出るかもしれない。

今回は、ひばり中の給食室のためだけに予算を回そうと考えられるのであれば、それを全小中学生の食の安全のために使うことで、合理的な給食の提供が可能であるのなら、そちらの方が優先順位は高いのではないかと考える。ひばり中が自校式になることは良いことであるが、全体の給食の安全の確保にこそ予算は使うべきと思う。

○委員：

今、平等という言葉が出ているが、現実には、親子給食の親校とそうでない小学校の間では、同じ公立小学校であるのに差がない訳ではない。新しい中学校ならばエアコンも設置できるし、より良い施設を設計できる可能性が高いので、中学校間の親子給食をスタートすれば、小学校の親校との痛み分けになると思う。中学のために大変な思いをしている小学校の数が減ると思う。

もちろん、組み合わせのことなど課題も多く出ようが、いろいろな可能性を配慮したり、防災の面についても考えてほしい。多目的室の仮配管などについてだが、せっかく設置しても何十年も使わないでいけば結局無駄になってしまうので、適当な期間には稼働することが大事なことだと思う。

○会長：

小学校も全てが平等ではない、という意見だ。小学校のための給食室なので、狭い部屋での親子調理を行っている。児童・生徒数は年々変化するために、現在の児童・生徒数を元にしたさまざまな試算であるので、不平等も発生していると思うが、全く完全な平等は無理があると思う。

新しい提案として、ひばり中に広い給食室を作っておいて、別の中学に運ぶということが出た。また、全体計画についても、基礎工事をした多目的室が一日も早く使われるようなものを作ってほしい、ということだ。

○委員：

小学校では、アレルギー対応児がふえており、除去食を作る場所にも事欠いている。たった1校ではあるが、ひばり中が自校式になれば、住吉小は安心してアレルギー除去食を作ることが可能になる。また、親校にはエアコンを設置する場所がない。親子給食を実施するための機材や倉庫等のために余裕が無い中での作業なので、親子給食を解消して、空いたスペースで、小学生のための給食に専念したい。

○会長：

親校の設備を改善するにも、敷地の問題で理想的な改修ができないそうだ。それであれば、自校式にしてしまいたいという意見かと思う。

しかし、この問題には予算が絡むということと、全体的な計画が必要なことと、中学校間の親子方式などの新しい提案については、次の期の審議会に委ねることになると思う。

教育委員会への要望は、安全を最優先に考え、全ての小中学生の給食の提供に、そのための予算を取って、できる限り課題解決に向けてほしい。

そのようなまとめとすることでよいか。

(「異議なし」)

正副会長が調製した最終意見書は、後日各位に配付する。

○課長：

最終の会議に当たり、挨拶申し上げたい。

この期の審議会は、給食費の改定と中学校給食の検証、そして最後にひばり中の建替え問題を議論していただき、大変多くの課題をこなされた。

どの課題に対しても、真摯に結論を導いていただき感謝したい。個人の思いはさまざまであると思うし、多くの立場を背負っての発言もあったと思う。その中でも、各位が個人の思いだけでなく、全体を捉えた意見を述べてもらった。

こうした積み重ねの意見書を8月中旬には教育長に報告して、今後の給食の発展に活用していきたい。2年間の苦勞に感謝したい。

○会長：

本日の会議を散会する。

以上